

12/3 薬物乱用防止に関するセミナーを開催しました。

12月3日(月)、北方系伝統薬物研究センターと薬物事件再発防止対策委員会共催による全学生・教職員を対象とした、薬物乱用に



関するセミナーが開催されました。

講師に厚労省国立医薬品食品衛生研究所生薬部第3室長の花尻瑠理先生をお迎えし、乱用薬物の危険性などについてご講演いただきました。

セミナー会場には180名を超える学生・教職員が参加し、質疑応答を含め2時間ほどのセミナーは盛況のうちに終了となりました。



本学では学生の薬物乱用防止への取り組みとして、このようなセミナーを毎年開催しているほか、関連性のある講義やガイダンス等で、学生に対して日々啓発活動を行っています。

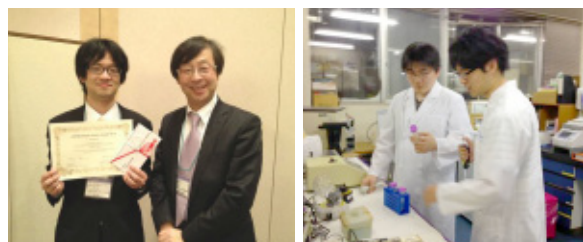
12/14 第60回国際歯科研究学会日本部会(JADR)総会・学術大会において Joseph Lister Awardの1st Prize(優勝)を受賞しました。

去る12月14日(金)、新潟コンベンションセンターで開催された第60回国際歯科研究学会日本支部(JADR)総会・学術大会にて、本学歯学部6年生原田文也さん、都倉堯明さんが Joseph Lister Awardを受賞しました。これは



歯学の発展に寄与する若手研究者の育成を目的とし、歯学部の子生を対象に今年より国際歯科研究学会日本部会(JADR)が設けた賞です。研究のタイトルは「Effect of Rho

kinase inhibitor on Epithelial Rests of Malassez (Rho キナーゼ抑制剤のマラッセ上皮細胞への影響)」で、Rho キナーゼ抑制剤が、エナメル質を再生する可能性のあるマラッセ上皮細胞の老化を抑制して培養効率を上げ、エナメル芽細胞への分化に関与することを



明らかにしたものです。(指導教授:臨床口腔病理学 安彦善裕教授)

応募者の中から書類審査により3人に絞られ、学術大会当日のポスター形式の発表および質疑応答による選考結果により、原田さん、都倉さんの研究が優勝いたしました。

EDITOR'S NOTE

人間はつくづくすばらしい方法をもった動物だと思います。生きていくために弱肉強食の食物連鎖とは違ったシステムを選んだのですから。自分の持っている力を他者のために提供し、助け合いながら生きています。教育という方法で自分の得た知識・技術を次の世代に伝え、ケアによって弱い立場の人も社会の中で一緒に生活していきます。

哲学者ミルトン・メイヤロフは、書物「ケアの本質～生きることの意味」のなかで、次のように述べています。「人をケアするとは、その人が成長すること、自己実現することをたすけることである」「相手の成長を助けること、そのことによってこそ私は自分自身を実現する」と。また、こうも言っています。「ケアする人は忍耐強い。なぜなら、相手の成長を信じているからである。しかし相手に忍耐を示すと同時に、自分自身に対しても忍耐せねばならない」

ケアは、提供する人と受ける人相互が成長し合うもの。根気よく相手の成長を信じ、自分の成長も信じるということです。医療と教育、よく似ています。私たちは、この大学で、人間が人間であることの根源になっているその両者の中に存在しています。これからも大いに成長していけそうです。(R.T記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.153

STAFF ● 増田 園子 派上 尚也 安彦 善裕 中山 英二
鎌口 有秀 志渡 晃一 竹生 礼子 富家 直明
榎原 健一 杉原 佳奈 長原 利明 宮崎 隆志
國見 明美 戸藤 成人

発行日 ● 2013年1月18日

編集・発行 ● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
☎(0133)22-2113
http://www.hoku-iryu-u.ac.jp

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしております。
E-mail:nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp

■北海道医療大学の教育理念
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。

